

# 「全国学力・学習状況調査」の結果について

平成22年10月10日

宮崎市立本郷中学校

## ◆ 調査の概要

期 日 平成22年4月20日（火）  
対 象 中学校第3学年生徒  
内 容

国語A：主として知識 国語B：主として活用

数学A：主として知識 数学B：主として活用

生徒質問紙 学習や生活の状況を見る

## ◆ 傾向と課題

### 「国語A」

- 全国平均正答率を上回っている領域は、「言語事項」が0.4%であり、他の領域においては約2%下回っている。
- 設問では、「一文を二文に分けて書く」で8.3%、「漢字を書く（先生に相談する）」で7.9%全国平均正答率を上回った。ただ「案内文に必要な項目の名称を書く」については、20.6%下回った。

短い設問、短いテキストから情報を読み取る設問では正答率が良い。

設問の意味がつかみにくい問題や、長いテキストから情報を読みとる設問では正答率が低い。設問の意図を理解し、目的をもってテキストを読み、情報を整理することに課題がある。

### 「数学A」

- 平均正答率では、全国・県と比べてほぼ同じである。36項目の中で上回った項目は、全国で21項目、県では17項目ある。
- 正答率が良かった項目  
①数の大小関係 ②文字の式の意味  
③数量関係の文字式での表現  
④数量関係の見出しと立式  
⑤多角形の内角の和の性質 ⑥証明の意義  
⑦グラフ上にある点の意味 ⑧場合の数

知識においては、図形全般について日々の復習が必要である。

#### 【課題となる内容】

「分数の計算」  
「辺と面の位置関係」  
「三角形の外角の性質」「変域」  
「二元一次方程式と一次関数との関連」

### 「国語B」

- 全国平均正答率との差は、「話すこと・聞くこと」が+2%、「書くこと」が-0.7%、「読むこと」が-0.5%である。
- 設問では「書かれている情報を的確に関連づけて読む」で2.2%、「資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明する」で2.1%上回った。
- 全国平均正答率を4%以上下回った設問はなく、全体としてはほぼ同等である。

全国平均正答率を3%以上下回った設問は2つあり、ともに「表現の仕方」についての問題である。文章や資料の表現の仕方について考えたり意見を述べたりすることに課題がある。

### 「数学B」

- 平均正答率では、全国よりは高く、県とはほぼ同じである。14項目の中で上回った項目は、全国で5項目、県では6項目ある。
- 正答率が良かった項目  
①問題解決のための構想とその説明  
②証明のしくみ  
③図形の特徴と名称  
④証明の根拠となる事柄の記述

活用においては、数と式や図形において数学的な解釈や説明する力を伸ばす必要がある。

#### 【課題となる内容】

「必要な情報の選択・処理」  
「数の性質の表現」  
「問題解決のための数学的な表現」  
「数量の特徴の表現」

## ◆ 指導の工夫・改善／今後の取組

### 国語

- 日常の授業の中で、発問を理解して応答する場面を多く設定することで、「話す力・聞く力」を高める指導の工夫・改善を行う。
- 漢字の読み書きだけでなく、語句の意味や文脈上の意味と短作文作成を組み合わせ、文章の読解力や実用的な文章を書くなどの表現力の育成を関連づけた学習を行う。
- 表現上の工夫と内容面との関連性を多角的にとらえ、検討する学習を取り入れた「読む力」を高める指導の工夫・改善を行うとともに、自分の考えを分かりやすく伝えることを目的とした「書く」活動を充実させた授業に取り組む。

### 数学

- 「基礎・基本の定着を図る授業」と「わかる授業」を実践し、家庭学習の取組も「既習内容の学習（復習）」を中心に定着させていく。
- 図形領域については、特に基礎・基本の定着を目指し、機会あるごとに反復学習を行い、定着の度合いを確認しながら指導していく。
- 自分で筋道を立てて考えたり、数学的に説明したりすることに苦手意識を持っている生徒が多い。日常の授業の中で、十分な思考や積極的な発表の時間を増やし、思考力や判断力を伸ばす。また、他の生徒の自分とは異なる考え方も大切にさせる。

## ◆ 生徒質問紙の結果

アンケート形式で学習や生活の状況をみる調査であり、全体的には、全国平均より県平均が高くなっている。本校の結果は全国平均より上回っている項目が多いが、県平均より下回っているものもある。各項目別に本校の実態をまとめた。

### 学習全般

- 学校の授業以外での1日の学習時間を示す項目では、平均2時間以上、休日3時間以上勉強する生徒が、全国・県平均より低い結果となっている。しかし、学校の宿題や復習をきちんとしている生徒は、県平均を下回るものの、全国平均は上回っている。
- 読書にかかる時間については、「読書を全くしない」という回答が、全国・県・本校のいずれも50%を越えている。その中で本校は、読書をする時間が1時間以上の生徒が全国・県平均より高い。学校の図書室や公共の図書館を利用する頻度も高く、読書習慣が身に付いている生徒が多い傾向にあると言える。
- 国語が好きな生徒は約60%と高いが、数学が好きな生徒は約50%で全国・県平均を下回っている。

### 基本的な生活習慣

- 食事に関して、朝食を毎日食べている生徒は約97%である。夕食を家の人と一緒に食べている生徒は約88%で望ましい傾向である。
- 平日は、同じ時刻に起床や就寝ができているようである。
- テレビを見たり、ゲームやインターネット、メールをしたりする時間は全国平均よりも低い。

### 地域とのかかわり

- 近所の人へのあいさつは87%の生徒が行っており、全国平均を上回っている。
- 地域の行事への参加は、21%と全国・県平均より低い。

### 自分自身のこと

- 友人との関わりや人に対する思いやりなどに関する項目では、全国平均を上回るものが多く、望ましい傾向にある。
- 「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」の質問では、全国・県平均とも64%であったが、本校は56%と低い結果である。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、「あると思う」と答えた生徒が64%、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、「持っている」と答えた生徒が74%といずれも全国平均を上回っている。
- 「学校の規則を守っていますか」の質問では、「守っている」と答えた生徒が、全国・県平均は90%を越えているが、本校は87%と少し低い結果である。